

# 感染症内科 研修カリキュラム

## 【科の紹介】

当院は県下唯一の1・2類感染症指定医療機関であるほか、結核病床(17床)をもち、エイズ診療拠点病院としてHIV陽性者の診療をおこなっている。日本感染症学会認定研修施設でもある。診療においては特殊感染症を含む入院患者、通院患者の診療、院内コンサルト、ICT(感染対策チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)の中心を担っている。またこの地域でマダニ媒介感染症(日本紅斑熱、重症血小板減少症候群など)が多くみられ、当科の特色のひとつとなっている。

感染症コンサルト業務が占めるウエイトが大きい。しかし、研修医には基本に立ちかえり、病歴の整理、プロブレムリストの作成、鑑別診断、治療方針の作成をおこなうスキルを身につけてほしい。またHIV診療では外国出身者や性的マイノリティとされる同性愛者を多く経験するためこれらに対する理解を深めてもらいたい。AST,ICT,HIV診療すべてに共通して、医師以外の職種(看護師、検査技師、医療福祉士、薬剤師、臨床心理士)、保健所職員、NGOなどと共同作業をおこなうことが多い。互いの立場を理解し、最終的に患者に利益がもたらされるよう努めてほしい

## A. 一般目標

感染症内科では感染症全般の臨床と適切な抗菌薬の使い方について、できる限り熟知した医師になる。また、日頃の診療業務を通して、臨床医として人間として成長していくことを目指す。

## B. 行動目標

### 1. 医療面接と身体診察

- 1) 感染症患者・家族に関して適切な医療面談、病歴聴取ができる
- 2) 感染症患者の診察に際して適切な所見把握ができる。特に異常所見を見逃すことなく把握できる

### 2. 検査・治療

- 1) 血算・白血球の分画、凝固・線溶系、生化学などの検査結果を解釈できる。
- 2) 細菌学的検査(基本的なグラム染色、抗酸菌染色)を実施・解釈することができる
- 3) 細菌学的な培養検査法、同定法、薬剤感受性検査法などについて理解できる
- 4) 各抗菌薬の特徴をよく知り、適切な使い方をすることができる
- 5) 病歴の整理、プロブレムリストの作成、鑑別診断、治療方針の作成ができる
- 6) 外来において病歴・身体診察により臨床問題を解決でき、必要に応じて適切にコンサルテーションできる

### 3. チーム医療

- 1) AST,ICT,HIV診療など、チーム医療に参加し、討論できる
- 2) 他職種の医療従事者と協力し、情報を共有できる

#### 4. 経験すべき症候・疾病・病態

##### 1) 経験すべき症候

外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う

- a. 発疹
- b. 発熱

#### C. 指導体制

1. 感染症内科医師は指導責任者として、ローテーション期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医(指導医)が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。
4. 学会(日本感染症学会、内科学会、エイズ学会、日本臨床微生物学会)発表もサポートする。

#### D. 研修方略

##### 1. オリエンテーション

- 1) 研修カリキュラムの説明
- 2) 感染症内科の概要

##### 2. 病棟研修

- 1) 患者の診療: 毎日、身体診察及び神経診察を行い、患者の状態を把握する。必要に応じて夜間・休日も診る。
- 2) カンファレンスは週 3 回・回診に参加し、検査適応・治療方針を理解する。
- 3) 検査適応・治療方針に基づき、指示並びに診療記録を行う: 毎日、必要に応じて夜間・休日も行
- 4) 緊急入院患者があればその初期対応に参加する
- 5) 感染症コンサルト業務を指導医とともに
- 6) AST, ICT ラウンドそれぞれ 1 回ずつ参加する

##### 3. 外来研修

主に見学。外来担当医の指導の下に、問診、診察、検査処置、投薬を行う。

##### 4. その他 救急患者の対応

指導医の下、その初期対応に参加する

5. 病理検討会、症例検討会に参加する。
6. 症例検討会で、今後の治療方針を含めた症例提示する。

#### 【週間スケジュール】

	午 前	午 後	時間外
月曜日	カンファレンス	回診	
火曜日	外来	回診	
水曜日		回診	18:00～内科症例検討会
木曜日		回診	
金曜日	カンファレンス、外来	回診	

### 【勉強会・カンファレンス】

- 1) 研修医は定期的に行なわれるカンファレンスに出席すること
- 2) 症例報告会、研修会、学会にも参加すること
- 3) 感染症管理・治療については病棟、カンファレンスで経験する
- 4) 可能な限り内科学会、感染症学会などで学会発表を経験する

## E. 研修評価チェックリスト

### 1. 医療面接と身体診察

- 感染症患者・家族に関して適切な医療面談、病歴聴取ができる
- 感染症患者の診察に際して適切な所見把握ができる。特に異常所見を見逃すことなく把握できる

### 2. 検査・治療

- 血算・白血球の分画、凝固・線溶系、生化学などの検査結果を解釈できる
- 細菌学的検査(基本的なグラム染色、抗酸菌染色)を実施・解釈することができる
- 細菌学的な培養検査法、同定法、薬剤感受性検査法などについて理解できる
- 各抗菌薬の特徴をよく知り、適切な使い方をすることができる
- 病歴の整理、プロブレムリストの作成、鑑別診断、治療方針の作成ができる
- 外来において病歴・身体診察により臨床問題を解決でき、必要に応じて適切にコンサルテーションできる

### 3. チーム医療

- AST,ICT,HIV 診療など、チーム医療に参加し、討論できる
- 他職種の医療従事者と協力し、情報を共有できる